



樹木と野鳥に 見守られてさう快な 気持ちになりました



市丸 結葵
福岡県
田隈小学校5年
イベント参加第18回生

森と一緒に成長したい



長尾 怜美
九州歯科大学院生
夢みるこども基金OB・OG会長
第1回生

平成22年6月30日、夢みるこども基金に新たなシンボルが仲間入りした。「夢みるこども基金の森」だ。佐賀県佐賀市三瀬村にある吉野山国有林22林班と小班を住所とする面積5・6ha、標高650mの国有林。佐賀県森林管理署と協定を結ぶことにより、基金の使用が認められたのだ。今年度のイベント「夢と宇宙と森と」は7月29日、この基金の森で開かれた。

森には、シイ・カシ・タブ・モミ・ヤマザクラなどの天然の広葉樹が生い茂っており、生き物も数多く生息している。「夢みるこども基金の森」開設にあたり、安全性を考慮した簡単な遊歩道を設置したのみで、他は人間の手が一切加えられていない天然の森だ。単に森と触れ合えることを目的としただけではない。「長期的に森を見守り、森を知って、一緒に育っていく」。机上で環境問題を唱えるより、実際に自分の目で見て学ぶ、このことが今の子どもたちに最も必要なことでもあり、未来の自然保護につながる術ではないだろうか。この森を通して「自然を守りたい」というこどもの純粋な心を、大切に育ててほしい。

第16回イベント前夜祭での基金の森開設を皮切りに、第17回の前夜祭そして今年度の第18回イベント本番もこの森で開催された。佐賀森林管理署による林業教室が毎回開かれ、こどもたちは森の木々の名前や生息している動物について学ぶことで、森への知識を深めていく。巣箱作りや秘密基地作りなど、こどもたちの夢がそのまま再

現され、自然を使って遊ぶことの楽しさを知る。「アスド」ドローンでのび太たちがよく行く学校の「裏山」は、まさに昔の日本の身近にあった自然の象徴だ。のび太は学校で辛いことがあったら、裏山に行くと「ちゃんと寝転がって空を見上げる。森のさわめきや鳥の声を聞くと心が落ち着いていく。当時は、地域に二つはあったこうした強いのが、こどもたちと森とを自然に結び付けていた。夢みるこども基金の森はまさに、こうした身近に触れ合える場所になってほしいと願う。

夢みるこども基金イベントも今年度18回を数え、参加当初は小学生だったが、こどもたちが今や社会人や、子どもと親になった人も少なくない。当時作られた文や絵に託した「私の夢」を実現していき、いっしょに育っていく。机上で環境問題を唱えるより、実際に自分の目で見て学ぶ、このことが今の子どもたちに最も必要なことでもあり、未来の自然保護につながる術ではないだろうか。この森を通して「自然を守りたい」というこどもの純粋な心を、大切に育ててほしい。

夢と希望で彩られたこの森を肌で感じてほしい。また、森作りに参加したこどもたちが、人生に迷ったとき、親になつたとき、またいつかこの森を訪れることで、こどもが描いた夢を思い出して、くれるような、そんな場になってほしいと思う。これから、この「夢みるこども基金の森」をどのように「こどもたちがたくさんの夢と探究心」で彩っていくかを

「夢みるこども基金」ホームページはこちら
「環境こども新聞・エココ」の投稿がホームページからも出来るようになっています。

ホームページを開設している歯科医院の方は基金ホームページへのリンクをご検討ください。

URL : <http://www.yumemirukodomo.jp> Webでの検索は

歯医者さんありがとう、私たちのキャンペーンは歯科医院などから提供していただいた金属冠で支えられています。

2面	星の観察会・絵(緒方太郎)、星の観察会・文(樋口晋也)、やまびこ交流館・絵(石田夏海)、やまびこ交流館・文(岩永百花)
3面	秘密基地づくり・絵(沖田陽祐)、秘密基地づくり・文(光安香穂)、スイカ割り・文(岡元優里愛)、キーホルダー作り・絵(堤花音)
4面	4コマ漫画(濱屋江里)、佐賀清光園のこどもからの基金へのメッセージ、あとがき(堀江健一郎)、新聞作りに参加して下さい、おこわり



絵／緒方 太郎
福岡県
横手小学校3年
第18回生

星空に手が届きそう 感動的でした



星の観察会

私たちはイベント前夜祭の28日、星の観察会をしました。観察会では、天の川や夏の三大角、北斗七星などいろいろな星について天文学協会の方から話を聞きました。その後は望遠鏡で土星をのぞいたり、双眼鏡で月のクレーターを観察したりと普段では経験できないようなこ

とをすることができたので、みんな大はしゃぎでした。中でも土星を観察できたことは感動しました。こういった星々はテレビや写真でしか見たことがなかったのでもっとも貴重な体験をさせてもらえたと思っています。観察会に備えて、この日午後、福岡市立少年科学文化会館でプラネタリウムを見学しました。こ

こで星空などについていろいろ勉強しましたが、生の夜空の観察はともきれいで星に手が届きそうな気持ちになり、感動しました。これから今よりもっと忙しくなると思いますが、このイベントであったことを思い出して、夢を実現するために精一杯頑張りたいと思います。基金の皆さん、そしてボランティアの皆さん本当にありがとうございます。



文／樋口 晋也
福岡県
柳南中学校2年
第18回生

かやぶき屋根の『やまびこ交流館』(旧民家)で深まった絆



絵／石田 夏海
鹿児島県
星峯西小学校5年
第18回生



7月28日夕方、佐賀県にある「やまびこ交流館」に到着しました。この交流館は古い農家を佐賀市が買い取り、この場所に移築しました。スキヤクワなどの農機具などを集めた蔵も付いており、昔の農村の生活が体験できるので、見物人も多いそうです。交流館に到着すると、すぐに子供探検隊は出動です。建物は

わらぶき屋根でいろいろがあり、私にとって初の体験ばかりでした。この建物で過ごしている間はタイムスリップしているかのようでした。その中でもっともみんなが興味を示したのは、「かやぶき」でした。スタッフの方がかやぶきは「下さり、さわってみたり、引っ張ってみたりと何度も出入りを繰り返していました。テレビで

か見た事のないものにふれ、私は昔の人々の暮らしを改めて実感する事も出来ました。最初はあまり話さなかった友達も、子供だけで泊まった事で打ちとけていき、「また来年ここで会おうね」と言いました。そして私の目標がもう二つ増えました。それは「また作文を書いて絶対みんなに会う!!」という事です。



文／岩永 百花
福岡県
高宮中学校1年
第18回生

秘密基地づくりで森との一体感を実現



絵／沖田 陽祐
福岡県
高取小学校4年
第18回生



文／光安 香穂
福岡県
箱崎中学校1年
第18回生

初めての秘密基地づくりは、すごく大変でした。なかなかつくる場所が決まらなくてみんなで大騒ぎ。木の葉で壁や屋根をつくったり、木の枝に竹をひっかけたりするときも大声をあげて、どこをどうしようか相談していました。

ようやく完成した私たちの秘密基地。森と同じ色の基地は、自然そのものでした。鳥やリスたちが住み家にしてほしいくらい、自然にこけこんでいました。その優しい色は、心に深く刻まれています。

私は、秘密基地の中で、森と一つになるような気がしました。虫も葉も空も全てが体にとけこむような気持ちです。森ですごくいいなあ、と思いました。

森の大切さ、優しさ、美しさに気付けたこの1日は私にとって間違いなく、この夏一番の思い出です。

被災地の受験生に合格祈願のキーホルダー



堤 花音
福岡県
平尾小学校5年
第18回生



東日本大震災地の仲間が勉強や運動に頑張ることを祈ってます

イベントに参加した基金と施設のごもたちは昨年のイベントに参加した宮城県女川町の高校受験を控えたごもたちにキーホルダー80個を作った。

キーホルダーの材質は、地元で集めたヒノキ、スギ、ヤマザクラ、クスノキ佐賀県の県木を幅1×3センチ、長さ5×6センチに切つてヤスリをかけ、カバンなどにつけられるような金具を付けた。

子供たちは、これにフェルトペンなどで「祈合格」努力は実る「頑張ってください」などのメッセージを書き込んだ。基金では「学問の神様」としてしられる福岡県太宰府市の太宰府天満宮に合格祈願をもらい、女川町教育委員会に送り、受験生に渡してほしいとお願いしている。



みんなの心が一つになつてのスイカ割り



岡元 優里愛
福岡県
延永小学校6年
第18回生



私は7月29日に夢みる子ども基金の森でスイカ割りをしました。私にとって、今年初のスイカ割りだったので、気合は十分でしたが、スイカは割れませんでした。

でも、私はその時スイカを割ることに必死で、他の人の声はよく聞き取れませんでした。

私が改めて他の友達やスイカ割りをしてる時の周りの人の様子を見ると、おどろきました。なぜなら、そこには子供から大人まで、みんな一丸となって応援している人達の姿があったからです。あれから何日もたった今でも、あの時の光景が強く印象に残っています。あれだけ

たくさんの人々が、丸となるなんて、すごいと思いました。私はスイカが苦手なので食べることはできませんでしたが、見るだけで、でもそのスイカの甘さが伝わってくるようでした。きっと、みんなで割った思い出のスイカだからだと思います。

夢と宇宙と森と

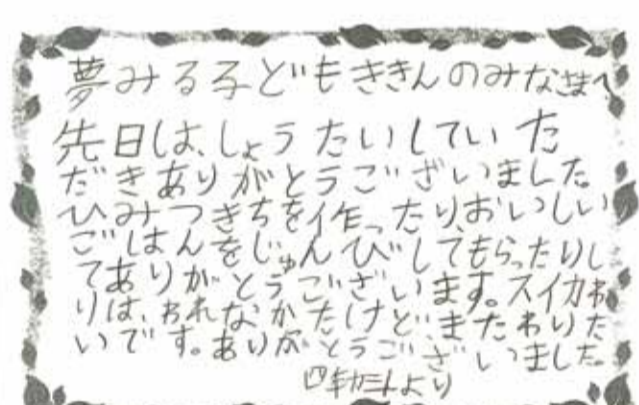
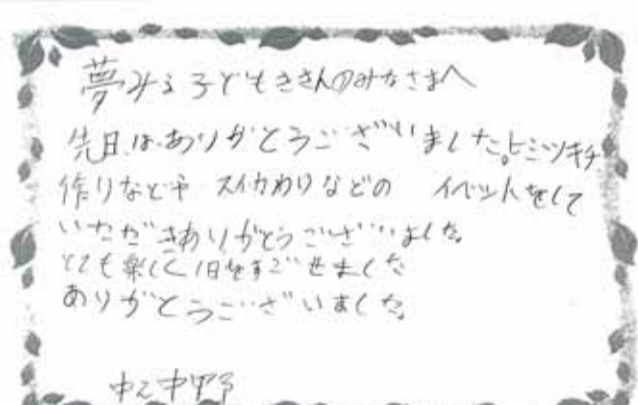
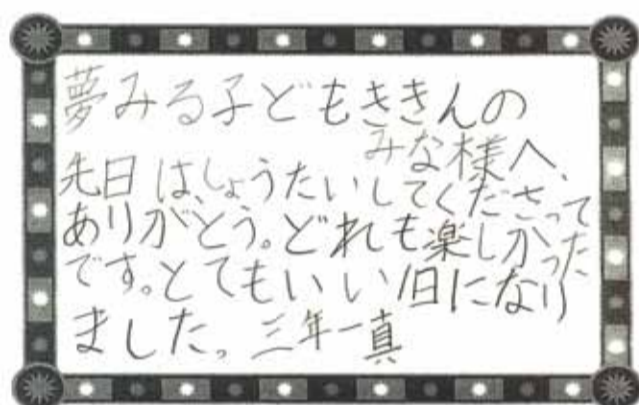
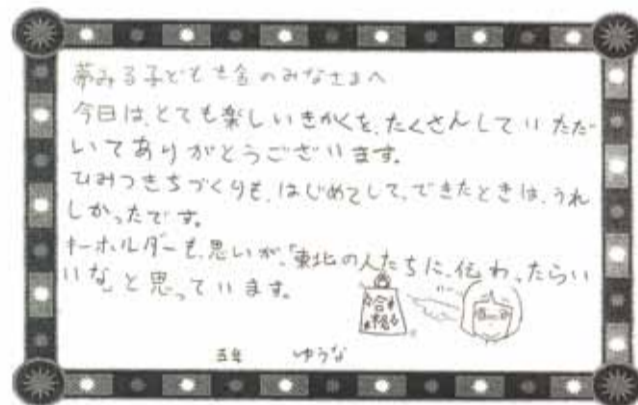
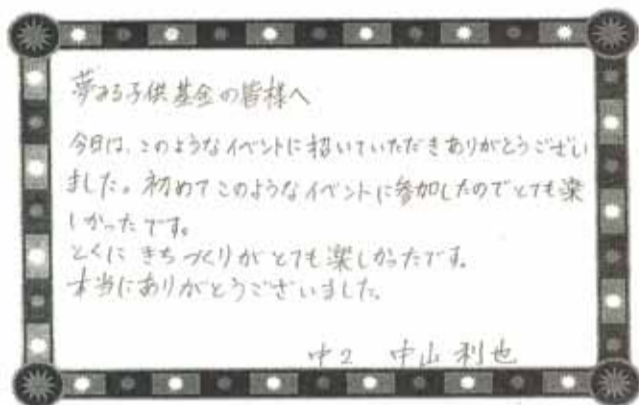




濱屋 江里
兵庫県
雲雀丘学園高校2年
第14・15回生

基金の森に天然記念物のヤマネが生息しているんだよ

イベントに参加した 佐賀清光園の子どもたちから 基金に寄せられたメッセージ



新聞作りに参加して下さい

「環境子ども新聞・エココ」は、環境をテーマに企画から取材、執筆まで全て子どもたちの手により作られている新聞です。基金のOB・OG会の会員はもちろん、それ以外の子どもたちも参加しています。

「環境」をテーマにしたものであれば、なんでも結構です。日々の生活の中で感じた事、体験した事や環境保護についての意見などをお寄せ下さい。

「環境子ども新聞・エココ」は年3回位のペースで発行を予定しておりますので、投稿は随時受け付けています。

投稿者は必ず氏名、所属(小・中・高校名と学年)、住所、連絡先を明記し顔写真を同封のうえ基金事務局へ送って下さい。絵、イラスト、漫画はカラーでお願いします。原稿、写真は基金のホームページからも投稿できます。

一人でも多くの方が新聞作りに関わってくれるのをお待ちしております。

● 投稿・問い合わせ先 ●

夢みる子ども基金事務局

〒810-0042 福岡県福岡市中央区赤坂1-12-6-2F

☎092-751-0021 FAX092-751-0249

e-mail: jimukyoku@yumemirukodomo.jp

URL: http://www.yumemirukodomo.jp

「環境子ども新聞・ECOko」への投稿待ってるよ!

あとがき

ECOkoを未来に貢献できるものにしたい

堀江 健一郎 福岡県 城南高校3年 第14・15回生

今号のECOkoは、7月28日から29日にかけて行われた夢みる子どもキャンペーン、第18回イベントを特集しています。今年のイベントも、近年恒例となっている佐賀県にある国の名勝・虹ノ松原の松葉掻きに始まり、佐賀県三瀬村の夢みる子ども基金の森での活動、と車の排気ガスや騒音に困られた都会での生活から離れ、川のせせらぎ、小鳥のさえずりや虫の声を耳に自然を満喫出来る2日間だったのではないのでしょうか。

中でも、3月に行われた子ども会議の時に発案された「秘密基地づくり」はまさに子ども達の夢の世界であり、僕も10年位前には、友達と近くの公園の裏道や人の住んでいない家の庭に入り込んで、秘密の隠れ家を作り遊んだことを思い出しました。また、秘密基地づくりに夢中になっている子ども達を前に自分の小さい頃からの夢実現に向けて、計画と達成の為の一步一步の努力が必要だという事を認識し、大学受験を目の前にした僕は、改めて決意しました。

それから、昨年東日本大震災により多大な被害を受けた宮城県女川町の中学生や昨年のイベント参加者達と共に設置した鳥の巣箱の点検をしました。巣箱に巣作りされているものもあり、子ども達の歓声も聞かれました

が、僕は昨年女川町の中学生達が巣箱に書き残した家族への想いや町の復興を願うメッセージなどが目に飛び込み、胸が熱くなりました。

あれから1年が経ち、あの恐ろしい自然災害が僕達の頭の隅に追いやられて来てはいませんか? 僕達は、昨年、福岡市内のイベントホールで女川町の中学生の皆さんと夢みる子ども基金の仲間としてずっと支え続ける事を約束して、幕を閉じました。この女川町の仲間達に今年のイベント参加者が基金の森の木で作ったお守りを届けることになりました。1人1人が遠い地で頑張る仲間達を想い、応援する気持ちを込めて一生懸命に作成し、充実した2日間のイベントの最後を迎えました。

毎年、たくさんの子ども達の夢実現に向けて、お手伝いや協力させてもらう立場であるスタッフに数年前から加えて頂き活動している僕ですが、まだまだ子どもでいたい、いつまでも夢を抱き続けたい、という思いが子ども会議やイベントに参加する度に強くなっていきます。

最後になりましたが、このECOkoも皆さんに愛読し続けて頂き、僕達の未来に貢献出来るような刊行物にしていきたいと思っておりますので、皆さん、どんどん投稿し協力して下さい。